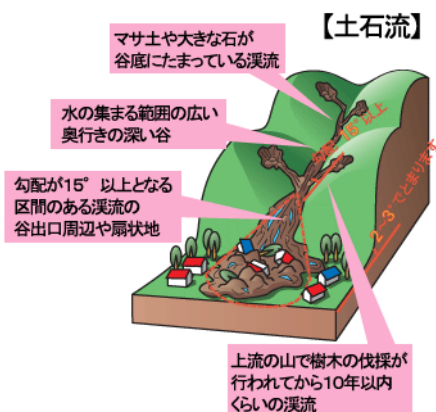


土砂災害に備えて

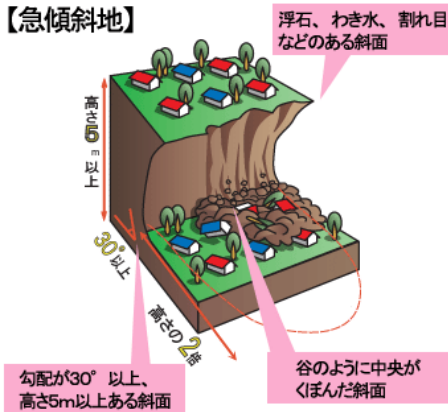


どんなところが要警戒なの？

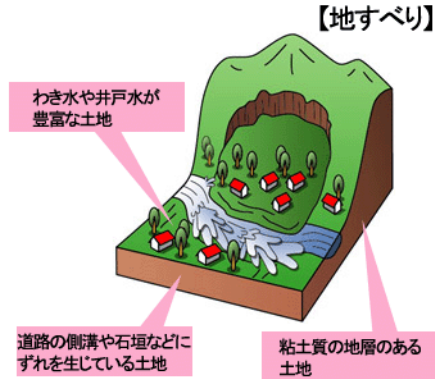
こんな地形のところが要警戒です。身のまわりにある要警戒の箇所を点検してみてください。



大雨などをきっかけに、谷底にたまった土砂や山腹から崩れた土砂が水流と混じり合わさって一体となり、その重みで急な谷を一気に流れ下るものを「土石流」といいます。一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅する恐ろしさから山津波とも呼ばれ、時速 40km といった速い速度で大きな破壊力をもって突き進んでいくこともあります。



大雨などをきっかけに、急な斜面の土砂が崩れ落ちるのを「山崩れ」や「がけ崩れ」といいます。斜面の崩壊は突然起こり、スピードも速いため、人家の近くでは山やがけが崩れると逃げ遅れる人も多く、人命被害の出やすい災害です。地震もきっかけになりますが、多くは大雨によって起こります。



雨や地下水などをきっかけに、山すそや丘陵地などの斜面などで、すべり地層を境に地面がそっくり動き出すことを「地すべり」といいます。がけ崩れによく似た現象ですが、もとの形をある程度保ちながら、ゆっくりと断続的に動くことが特徴です。



どんな時が要警戒なの？

— 土砂災害の前兆現象 —

斜面や家の裏のがけ、川や谷でこんなことが起こると危険な状態です。



がけから小石がパラパラと落ちてきたとき



家、地面、よう壁、斜面にひび割れができたとき



井戸水や沢の水が濁り始めたとき



斜面やがけから水が急に噴出したとき



雨が降っているのに川の水が急に減り始めたとき



川の流れが急に濁ったり、流木がたくさん流れてきたとき



山全体がうなっているような音（山鳴り）がするとき

日ごろから注意しておくことは？

日頃から家族や地域ぐるみで避難場所・順路や連絡方法などを話し合っておくことが大切です。

昔のことをふりかえってみましょう

「災害は忘れたころにやってくる」とよく言われます。自分の住むところで、昔どんな災害が起こったかを知っておくことも大切です。身近な人達の体験などに耳を傾けて、過去の災害をふりかえってみましょう。



非常持ち出し袋を用意しておきましょう

飲料水、非常食、携帯ラジオ、懐中電灯、救急医薬品などの荷物はリュックサックに必要最小限にまとめておきましょう。

日頃の備え

避難場所や避難の順路などを決めておきましょう

家族やご近所の方と避難場所や順路、避難の方法などを話し合っておきましょう。避難する場所や順路に危険がないかも、日頃から調べておきましょう。また、はぐれた場合に連絡方法なども決めておきましょう。



大雨が降ってきたら？

大雨が降り出したら、気象情報などさまざまな情報に気を配り、危険を感じたらできるだけ早めに避難しましょう。

気象情報などに気を配りましょう

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。天気予報や台風情報に注意しましょう。また、近所の方々なども連絡を取り合しましょう。

1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

アレ！と思ったらっすぐ避難しましょう

大雨注意報や大雨警報などが出されている時は、自宅の周辺を再点検してください。

少しでも危険な前兆現象を見たり聞いたりしたらすぐに避難しましょう。

隣近所で協力しましょう

隣近所で声を掛け合って、集団で避難しましょう。お年寄りや体の不自由な人、子供を優先して避難しましょう。

早めの避難

